

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		安田 啓太	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	<p>講義科目は機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、情報科学演習、機械基礎工学および機械システム工学演習を担当する。学生がこれらの講義を通じて機械システム工学や関連する諸分野に対する理解を深めることのできるよう、具体的で分かりやすい講義を志して取り組む。それぞれの講義ではTAに教育的立場からの視点を持たせることで資質向上を目指す。</p> <p>また、1年次の指導教員として各学生の個性を鑑みて今後の大学生活を滞りなく過ごせるよう指導する。</p> <p>卒業研究の担当学生3名について、これまでに学んできたことの集大成として卒業研究を取りまとめる過程で論理的思考能力の向上を目指す。</p>		0.35	<p>講義科目として機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、情報科学演習、機械基礎工学および機械システム工学演習を担当した。学生の理解の補助となるよう、配布資料や演習内容を前年度から更新して講義を行った。また、TAに一部の業務を分担させることでTAの資質向上を目指した。</p> <p>1年次の指導教員としては、年次別懇談会や夏季の合宿研修を通じて4年間の学生生活がスムーズになるよう指導した。</p> <p>卒業研究の担当学生3名には研究活動を通じて論理的思考能力を高めるよう指導した。</p>
研究	0.45	<p>クラスレートハイドレートと呼ばれる水と“ゲスト物質”からなる化合物の物性を明らかにする研究を行う。また、今後展開していく課題として、「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」に取り組む。さらに、農学部の辻瑞樹教授と共同でミツバチの生育環境の改善に工学的手法を取り入れた研究を行う。</p> <p>研究成果はインパクト・ファクターが2を超える論文誌での発表を目指す。年度内に2編の投稿を目標とする。</p> <p>外部獲得資金としては科研費の採択を目指し応募を行う予定である。</p>		0.45	<p>クラスレートハイドレート関連研究・衝突噴流熱伝達に関する研究・ミツバチの生育環境に関する研究をそれぞれ進展させた。</p> <p>研究成果をまとめた論文がJournal of Chemical Thermodynamics誌(インパクト・ファクター2.196)およびFluid Phase Equilibrium誌(インパクト・ファクター1.846)にそれぞれ1編ずつ掲載決定となった。</p> <p>外部資金獲得のため科研費(若手B)への応募を行った。</p>
社会貢献	0.10	<p>オープンキャンパスをはじめとした学外向けのイベント、「ちびっこエンジニアリング」などの社会貢献を目的としたイベントに積極的に参加する。</p>		0.05	<p>社会貢献を目的とした「ちびっこエンジニア体験教室」の運営委員として活動した。</p>
管理運営	0.10	<p>工学部選挙管理委員として各種選挙の公正な実施に努める。</p> <p>学科の運営管理として、年度内時間割の管理および運営を行う。</p>		0.15	<p>工学部選挙委員として学部長選挙をはじめとした各種選挙の公正な実施に努めた。</p> <p>学科および新コースの時間割担当として時間割編成および管理を行った。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	屋我 実		所 属	工学部 機械システム工学科		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<p>機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする。またいつでも問い合わせができるように、対応を考える。 指導大学院生に国際学会で学会発表をさせる。履修相談や将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談を行う。</p>		0.25	<p>・機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行なった。 ・学生からの得点や評価の質問に対して、メール・口頭で回答した。 ・また履修相談についても、就職担当をした経験から企業側の視点について助言した。 ・指導大学院生大学の予算で国際学会に派遣し、学会発表をさせ。また天津大学に招待され、講演を行った。その招待した教授を琉球大学に招聘し、大学院生とのゼミ通して、学生との国際交流の促進をはかった。</p>		
研究	0.35	<p>国際学会への参加および国際誌への投稿・掲載を目指す。 また特許申請をめざし、これを利用して研究を積極的に推進する。国際学会のコミッティーメンバとして、国際学会を沖縄に誘致する。28年度採択された科研費テーマの応用的な研究を行う。</p>		0.35	<p>平成28年とから3年間の科研費(基盤研究C)が採択された。 国際誌へ1編採択された。 国際学会で講演・発表を行った。 来年度5月の国際学会に向けて、実行委員長して実行委員会を組織、その準備を行った。その結果発表件数140件の登録があった。 さらに韓国安東大学の教授も招聘し、学生との交流、今後の共同研究についての方針を検討した。</p>		
社会 貢献	0.20	<p>学外審査委員会の委員や委員長になり、県内物づくりのレベルを向上させ、県内物づくりに対する環境作りを支援する。 機械学会の沖縄地区会地区長として、沖縄県内のける学会活動を支援する。</p>		0.20	<p>学外審査委員会の委員や委員長になり、県内物づくりのレベルを向上させ、県内物づくりに対する環境作りを支援する。 さらに、県内企業・県外企業および工業技術センターと当研究室の4社でプロジェクトを立ち上げ、予算獲得を達成した。 平成28年10月久米島に襲来した台風の被害調査を行い、被害の実態や将来的な可能性も検討した。</p>		
管理 運営	0.15	<p>施設環境員会委員、工学部国際交流員会として学部内の円滑な組織の運用に寄与する。 またCOCちゅらしま関連の企画を推進し、工学部としての役割を果たす。</p>		0.20	<p>施設環境員会委員、工学部国際交流員会として学部内の円滑な組織の運用に寄与する。 またCOCちゅらしま関連の企画として県外企業の技術担当者を招聘して学内でセミナーを開催し工学部としての役割を果たす。</p>		
	0.00			0.00			
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		宮田 龍太	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	研究室に配属された修士2年次2名および学部4年次4名全員が納得した進路を決定し、学位審査を通過できるように指導する。さらに、有志学生を対象に、情報処理技術者試験など研究関連資格の勉強会を主催する。		0.30	指導の結果、研究室配属された修士2年次2名および学部4年次4名全員が納得した進路を決定し、学位取得の見込みとなった。特筆事項として、それらの中から理工学研究科長賞と工学部長賞受賞者を1名ずつ排出できたことが挙げられる。 さらに、有志学生を対象に研究関連資格の勉強会を実施し、国家資格である基礎および応用情報技術者試験の合格者を1名ずつ輩出した。		
研究	0.40	OISTや沖縄高専など県内の研究機関との共同研究を行い、それらの成果をまとめて学会で発表し、学術雑誌への論文投稿・採択を目指す。		0.40	OIST、沖縄高専、および本学教育・理・工学部情報工学科との共同研究を行い、国内・国際学会で計16件の研究発表を行った。また、それらの研究成果の中から学術雑誌への論文投稿を1件(現在査読中)、統計数理研究所共同研究レポートとしての寄稿を1件行った。		
社会 貢献	0.10	オープンキャンパスなど学外者対象のイベントにて新コースの魅力を発信する。		0.10	7月に本学で開催されたオープンキャンパス、10月に沖縄高専で行った専攻科生向け出前授業、および12月に本学付属小学校で行った高学年向け出前授業にて新コースの魅力や人工知能研究、プログラミングについて情報を発信した。		
管理 運営	0.20	学部(1)・学科(3)の委員会委員としての職務を遂行する。		0.20	学部・学科の委員会委員としての職務を遂行した。とくに、本校開催の学会行事の実行委員会にてホームページ担当として貢献した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎 達二郎	所 属	工学部 機械システム工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート等の指摘, 自らの発意に基づく授業の改善を試みる.</li> <li>・学生実験においてTAを有効に活用し, 教育効果の改善を試みる.</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題を増やし, 学生の理解度が向上するように心がけた.</li> <li>・TAには, 準備や片付けだけでなく, 実際の実験にも参加してもらい, 受講学生が気軽に質問できるよう工夫してみた.</li> </ul>	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌への複数編の論文投稿を目指す.</li> <li>・複数回の学会での研究発表を目指す.</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料力学カンファレンス2016(日本機械学会)で1件の発表を行った.</li> <li>・「日本機械学会論文集」, 「設計工学」にそれぞれ1本の論文を投稿した.</li> <li>日本機械学会論文集に投稿した論文は掲載となった.</li> <li>・FFW2016で1件の発表を行った.</li> <li>・FFW2016で1件の発表を行った.</li> </ul>	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス等で, 研究成果を紹介する.</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスで, 研究内容および成果の紹介を行った.</li> </ul>	
管理運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次編入, 大学院等の入試業務に携わる.</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試, 推薦入試を担当した.</li> <li>・3年次編入で材料力学の問題の作成, 採点を行った.</li> <li>・大学院入試で材料力学の問題点検を行った.</li> </ul>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください.</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください.</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください.</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください.</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		近藤 了嗣	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料はJABEE保存資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載しており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.40	専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。 前学期専任科目の機械システム設計製図ではエンジニアリング・デザイン教育のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、これらのグループワークを実施した。CAD演習に関して、卒業研究課題でも検討を行った「鍋CAD」を教材に採用することで授業環境改善に取り組んだ。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前・後学期開講して提供科目の充実に貢献した。専任科目では「普通」以上、10割を達成し、今年度の目標以上を達成した。卒業研究担当学生3名に対して定期的に進路相談の時間を用意した。結果、3名とも進路が決まり、当初の目標を達成した。		
研究	0.30	現在、遂行中の研究課題に関する成果発表を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から掲載までに要する時間などを考慮して、年間1件程度を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載しており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.20	研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した。これらの結果に関して、JSME2016年度年次大会では研究課題“繰返し変形における圧縮変形が転位組織の発達に及ぼす影響”、M&M2016材料力学カンファレンスで“繰返し負荷を受けるTi合金の不均一変形に関する結晶塑性解析”に関して講演発表を行い、今年度の目標以上を達成した。		
社会 貢献	0.05	技術相談等、専門知識を活かして社会貢献に努める。証拠資料は関連資料とする。実際に技術相談を受ける頻度は稀なため、業務ウェイトは0.05とするが、H25年度から毎年、評価Aを載しており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.15	日本機械学会2016年度校閲委員委嘱を受け、承諾すると共に同学会学術誌の和英論文の校閲委員を務めた。また、JSME年次大会で材料力学部門一般セッションの座長を務めると共に同部門の発表の審査を務めた。情報工学科和田教授から紹介戴き、教員免許状更新講習の司会を務め、今年度の目標以上を達成した。		
管理 運営	0.25	学科では広報委員会、学部、全学でも委員会委員を務める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載しており、本目標設定は妥当と考えられる。			0.25	学科では広報委員会委員を務め、学部では交通安全委員会委員、全学では情報委員会委員、琉球大学機器分析支援センターRI施設放射線安全委員会委員を務め、入学者選抜試験に関してはセンター試験の警備を担当し、今年度の目標以上を達成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		古川 俊雄		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。社会連携担当副学部長として工学部後援会で就職説明会とセミナーを行い学生の就職活動の支援を行う。				0.40	授業に占める演習の割合を多めにし理解度が増すように努め、学生が興味を持てるように工夫したところ、授業アンケートの結果は、例年他の学年の学生に比べて「ふつう」以上が少ない1年生科目の線形代数学が89%で、「よい」「大変よい」が57%とかなりよい結果となった。これは高学年で線形代数学の知識が必要となることを具体的に示した(例えば機械力学で用いる)ことも関係していると思う。また、6科目中4科目が「ふつう」以上が90%を超え、5科目が「よい」「大変よい」が50%を超え十分な成果を得ることができた。このようになった理由として例えば、機械要素設計学においてベルトの設計の実際例や歯車の選択においてモジュールが大切である実際例を示したことも影響していると思う。社会連携担当副学部長として工学部後援会で就職説明会とセミナーを3回実施し学生の就職活動の支援を行った。				
研究	0.40	関係する学会講演会等に積極的に参加し、最新の研究成果の知見を得るとともに可能な限り研究発表を行う。研究成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。				0.40	6月にイタリア共和国サレルノで開催された第11回熱応力に関する国際会議Thermal Stresses 2016(IUTAM公認)に参加して研究発表を行った。また、10月に中国の上海で開催された第5回機能性材料と構造物の力学に関するアジア会議ACMFMS2016の国際諮問委員会の委員として会議の運営に協力した。ただ国際会議で発表した内容を学術誌に投稿するまでのまとめがまだ十分ではなく投稿するに至らなかったことは残念である。次年度もロシアで開催される国際ワークショップに参加する予定であり、学術誌に投稿できるようにブラッシュアップを図っていきたい。				
社会 貢献	0.10	社会連携担当副学部長として工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努める。論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。				0.10	社会連携担当副学部長として工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努めた。工学部後援会総会は昨年に引き続いて会場が手狭なほど賑わった。Acta Mechanicaなどから依頼された論文校閲を積極的に引き受けた。				
管理 運営	0.10	社会連携担当副学部長として学科会議、教授会、研究科委員会などで円滑な運営に協力する。				0.10	社会連携担当副学部長として学科会議、教授会、研究科委員会などで円滑な運営に協力した。技術部で月1回行われる技術報告会に今年度から参加して、技術部とのかかわりを増やすように努めた。キャリア教育支援部門会議において全学のキャリア教育と就職関係の情報収集に努めた。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柴田 信一	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程において講義を行う。			0.30	学科においては機械基礎工学、材料加工学I、高分子合成論、機械システム工学実験I, IIにおいて講義を行った。大学院では科学者の倫理、学部ではフロンティアエンジニアリングを担当した。		
研究	0.40	国際的学術雑誌にて研究論文を発表する。特許出願を行う。共同研究で外部資金を得る。			0.40	大阪ガスと受託研究を行った。株式会社沖縄ウコン堂と共同研究を行った。以上、2社から外部資金を得た。大阪ガスの受託研究の結果、成形加工学会で2件発表を行った。中国広西博冠とバガスからの生菌剤製造に関する実用化について2017年度の受託研究を行うことになった。研究論文は特許出願と内容重複のため次年度とした。		
社会貢献	0.15	研究の実用化を推進する。			0.15	大阪ガスと共同でバガスの臭気抑制に関する特許を出願した。JICA事業、熱帯地域における持続可能なバイオマスおよびバイオエネルギー利用、コースの講師を務めた。沖縄ウコン堂との共同研究で、ウコンの糖質削減に関する発明を行い、学内の発明審査委員会で大学帰属となった(3月中に特許出願予定)		
管理運営	0.10	社会連携推進委員, 将来計画育委員, JABEEのFD委員長として活動を行う。			0.10	JABEE、FD委員長として授業改善アンケートの集計を行った。社会連携推進委員、将来計画委員として活動した。		
進路指導	0.05	学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行う。			0.05	4年次学生を指導し、4年次卒業研究配属学生4名中4名について民間企業の内定を得た。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松田 昇一	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の卒研生(10名)を対象として伝熱ゼミを行う。 修士学生(6名)および卒研生(4名)に英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行う。		0.30	学生から積極的に意見を聞き、その都度資料を作り対応した。 九州卒研に学部生1名および機械学会九州支部講演会にて大学院生2名を発表させた。 4年生・院生を対象に伝熱ゼミを行った。 研究室の学部生・院生を対象に各研究分野の英語論文または研究ゼミを年間をと おしてそれぞれのテーマで最低週1回行った。
研究	0.40	学会誌へ投稿(1~2件)を目指す。 国内発表(2~3件)を目指す。 国際学会発表(1件)を目指す。 新規取得の科学研究費補助金(H28~30年度, 基盤C)の研究を精力的に行 う。 大阪大学接合科学研究所と共同研究を行う。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行う。		0.40	学会誌へ2件投稿し, 1件掲載(ISTS)が決定した。 国内学会および研究会にて4件発表(本人:2件, 学生:2件) 溶融池磁場溶接に関して大阪大学接合科学研究所との共同研究を行った。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行った。 川崎重工との共同研究を行った。 平成28年度~平成30年度採択の科研の研究を精力的に進めた。
社会 貢献	0.15	学外の行事に参加する。 溶接学会の教育委員, 九州沖縄支部委員および若手の委員として社会貢献 に努める。 機械学会熱工学部門九州支部委員として社会貢献に努める。 機械学会流体部門広報委員として社会貢献に努める。		0.15	機械の日イベントの「ちびっ子エンジニアリング体験教室」の企画・運営をした。 溶接学会の教育委員, 九州沖縄支部委員および若手の委員として学会の運営に積 極的に関わった。 機械学会熱工学部門九州支部委員として学会運営に関わった。 機械学会流体部門広報委員として, ニースレター等の編集に関わった。 沖縄の企業および研究者向けの研究セミナー(レーザークリーニング)を企画, 主催 した。
管理 運営	0.15	工学部広報・図書委員, ニュース編集WE委員として努める。 学科志願増委員(委員長)として努める。 代議会委員として努める。		0.15	工学部広報・図書委員, ニュース編集WE委員として, 特に改組に伴うパンフレット等 の作成およびHPの作成に関わった。 学科志願増委員(委員長)として努めた。 代議会委員として努めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく ださい。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		照屋 功	所 属	工学部 機械システム工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める。</li> <li>・怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケート総合評価は「ふつう」以上が90%以上と高い評価を得た。</li> <li>・「機械設計技術者試験」対策講座講師として他の学科内有志教員と共に学生を指導し、担当科目について学生の理解度を向上させることができた。</li> <li>・毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。</li> </ul>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会講演会等への参加および報告発表。</li> <li>・ターボ機械協会沖縄地区委員会幹事としての活動。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本機械学会講演会に参加し、研究発表した。講演論文1件。</li> <li>・来年度の国際学会に実行委員として準備を進め学会に寄与した。</li> <li>・ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としてターボ機械への関心向上にむけた地区活動をおこなった。</li> </ul>	
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、社会等へ向けた学科や研究内容紹介。</li> <li>・県内外の工業界との交流や連携。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科HPなどで研究内容、設備、学科の紹介をした。</li> <li>・「機械の日ちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部学科PRをした。</li> <li>・企業の技術相談に応じ、共同開発に参加して沖縄TLOから補助を受けた。</li> <li>・学生の就職活動に関して県内外の企業の方々と交流を持った。</li> </ul>	
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学学士教育プログラム委員会での活動。</li> <li>・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務。</li> <li>・機械学会九州支部沖縄地区会広報担当委員としての運営。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学学士教育プログラム委員会での活動をおこなった。</li> <li>・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。</li> <li>・機械学会九州支部の沖縄地区会広報委員としての運営活動をおこなった。</li> </ul>	
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間主コース2年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)。</li> <li>・保護者への学習状況連絡等による学習・生活指導。</li> <li>・研究室、その他の学生への進路指導。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間主コース2年次指導教員として学生の就学進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)をおこない、学生を指導した。</li> <li>・学習状況連絡等による年次学生保護者も巻込んだ学習生活指導をした。</li> <li>・研究室、その他の学生への進路指導をした。</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真壁 朝敏	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	大学院博士前期および後学期の院生の指導を行う。博士後期の院生の研究論文執筆に協力する。また、学部学生の講義にあたっては、前年度の指摘に注意しながら講義を行い、改善する。機械学会九州支部学生会が行う本学での卒業論文発表会に協力する。			0.30	大学院博士前期および後期の院生の指導を行い研究を進展させ、論文投稿の実施および投稿に向けた準備を行わせている。後期の院生は3月に修了できる見込みである。講義に関しては、前期の指摘を考慮して改善している。機械学会九州学生会に向けて準備委員長として準備を進めている。		
研究	0.20	1編以上の論文を国内あるいは国外の論文集または学術誌に投稿する。また、国際会議等でも発表をするように心がける。学外の研究者との共同研究を行うように努力する。そして、エネルギー機器に関係した研究について実験的な研究をすることを目標にする。もし、共同研究者がいれば、そして可能ならば、外部資金の募集に応募する。			0.20	複数の論文が掲載決定となった。今年度の九州大学応用力学研究所との共同研究報告書(エネルギー機器と材料に関する内容)を提出した。沖縄科学技術振興センターから予算をいただき、エネルギー機器の安全性の問題に関する研究を推進している。		
社会貢献	0.20	島嶼防災研究センターと関連して、本学と外部団体との共同的な取り組みに協力する。材料学会九州支部、常議員の役目を果たす。日本複合材料学会の委員として当学会に協力する。その他、可能な事業に協力する。			0.20	島嶼防災センター長として沖縄県企業と連携した複数の講演会を開催した。また、本学と港湾空港技術研究所の研究連携記念シンポジウムの司会を務めた。沖縄県企業の機器の破壊事例に関して沖縄県工業技術センター職員とともに調査し報告会を開いた。科研費審査に対し日本学術会議から表彰された。		
管理運営	0.30	教授会等の会議において学科の立場での発言を行う。島嶼防災研究センターのセンター長として、当センターの運営に関する努力をする。			0.30	教授会に積極的に参加した。島嶼防災研究センター長として熊本における地震調査等に積極的に協力し、センター運営の一環としてシンポジウムを開催して、その成果を公表した。また、センターの事務的な処理を事務職員と協力して行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		水口 尚	所 属	工学部 機械システム工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学生とのコミュニケーションの機会を多く取るように努力する。 担当する学生実験、基礎製図の補足資料などを準備し、学生の理解を高める努力を行う。 指導担当の1年次昼間主コース(2組)の学生の履修指導を行う。 配属された卒業研究の学生に就職・進学指導を行う。		0.30	オフィスアワーの時間帯やメールアドレスを居室のドアに掲示した。 学生実験(前期:夜間主コース1テーマ、後期:昼間主コース1テーマ)と基礎製図(夜間主コース)において補足説明の資料を作成・配布し、説明を行った。また、基礎製図では、学生からの授業改善アンケートの総合評価でふつう以上が100%であった。 1年次の行事(オリエンテーション・年次別懇談会、1・3年次合宿研修)などで履修指導を行った。 配属された卒業研究の学生3名と修士学生1名に対して就職・進学指導を行った。	
研究	0.60	卒業研究や修士の学生の研究指導を行い、学会などの学外での発表に積極的に参加してもらう。 研究成果をまとめ学術講演会に参加し、学術論文を投稿する。		0.60	卒業研究では3名、修士学生を1名を指導した。沖縄高専との合同研究発表会にて指導している学部学生1名が発表し、機械学会九州学生会卒業研究発表会(3/3)にて指導している学部学生2名が発表を予定している。 研究成果をまとめ、国内学会(1件)、国際学会(1件)で発表し、1編の学術論文の掲載が決定した。	
社会 貢献	0.05	化学工学会の沖縄化学装置懇話会や海水学会の西日本支部の活動を通して地域産業への貢献を行う。 島嶼防災研究センターの併任研究員として社会貢献を行う。		0.05	沖縄化学装置懇話会の庶務幹事、海水学会西日本支部の幹事として活動を行った。 島嶼防災研究センターの併任研究員からは外れた。	
管理 運営	0.05	全学の動物実験委員会委員、学科内の会計委員会委員を担当する。		0.05	全学的な動物実験委員会にて工学部代表とし12月末まで担当した。 学科内の会計委員として学科内の会計に関する実務を担当した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		瀬名波 出	所 属	工学部 機械システム工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱機関工学:授業の終わりにグループによるアクティブラーニング方式の演習課題を取り入れる。</li> <li>・熱力学II:昨年に引き続き、履修効果の高かったアクティブラーニング方式の演習課題を継続する。</li> <li>・博士、修士学生の国内学会・国際学会発表指導</li> <li>・1年次1組(昼間主)指導教員</li> <li>・研究室学生の進学や就職指導</li> </ul>		0.35	目標項目: ●熱機関工学:今年度よりアクティブラーニング形式の授業を導入した。 ●熱力学II:2年次1組、2組に加えて過年度生対象の3組を対象に昨年に引き続きアクティブラーニング形式の授業を導入した。履修率が85%以上と格段に向上した。アンケート結果も好評だった。 ●修士・博士学生の国内学会発表指導3件を行った。 ●1年次1組(昼間主)指導教員として、夏休みの研修等積極的に指導を行った。 ●研究室学生の進学や就職指導を行った。指導学部学生の大学院進学率100%だった(4名)。 追記: ●機械工学概論:熱力学担当(3週)を担当した。 ●教育関連学会に複数参加し、アクティブラーニング、プロジェクトベースラーニング等、文科省の推奨する新しい工学教育方法の情報収集を積極的に行った。 ●ABEプログラムによるアフリカからの留学生修士1年の受入・研究指導を行った ●卒業研究(3テーマ:主指導3名) ●修士(主指導教員3名、副査3名)研究指導 以上より、年度目標は十分に達成したと考える	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSTマッチングプランナープログラム(H27からの継続課題)</li> <li>・関係する学会等において積極的に研究発表を行う。</li> <li>・成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す。</li> <li>・産官学協力型研究PJ化を進める。(外部資金の獲得を目指す)</li> <li>・研究成果の広報活動を行う。</li> <li>・文科省、地域イノベーションエコシステム形成プログラムに応募予定</li> </ul>		0.35	目標項目: ●JSTマッチングプランナープログラム(H27からの継続課題)を継続して行い、共同研究テーマ1件、査読付き論文投稿1件に発展させた。 ●国内学会発表3件、査読付き論文1件採択、査読付き論文2件投稿中 ●H26年度外部資金:共同研究1件受託 ●研究成果の主な広報活動2件:1) Bio-Japan2016にて研究紹介(2016.10)、2)日本下水道協会発行の「再生と利用」第153号にて研究紹介記事掲載(2016.11) ●文科省、地域イノベーションエコシステム形成プログラム(期間5年、予算6億円)に沖縄県と共同で応募した。(不採択) 以上より、年度目標は達成したと考える	
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業支援の一つとして専門分野の知見および研究成果を公開していく。</li> <li>・学協会活動への協力</li> </ul>		0.20	目標項目: ●専門分野の知見および研究成果を公開:1)久米島町地域円卓会議委員、2)Mg循環社会協議会委員、3)国際電気自動車レース技術アドバイザー委員、4)県「海洋温度差発電における発電後海水の高度複合利用実証事業」委員、5)なんじょう産学官連携人材育成協議会委員(南城市)、6)うるま市地域円卓会議委員 ●学協会活動への協力:1)日本機械学会論文集校閲委員、2)論文査読3件(国際誌3件) 以上より、年度目標は十分に達成したと考える	
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28年度産官学連携推進部門研究支援系長</li> <li>・H28年度発明審査委員会委員</li> <li>・H28年度工学部研究推進委員</li> <li>・H28年度学科入試委員</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●H28年度産官学連携推進部門研究支援系長として毎月2回の会議に参加、学内シーズ研究と学外企業ニーズとのマッチングサポート(6件)を行った。</li> <li>●H28年度発明審査委員会副委員長として毎月委員会に参加</li> <li>●H28年度工学部研究推進委員</li> <li>●H28年度学科入試委員として新しい入試業務の多くに係わった。</li> <li>●学科内の学部改組WG委員として多くの作業に積極的に関わった。</li> </ul> 以上より、年度目標は十分に達成したと考える	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		齊藤 正敏	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	1. 機械材料 I : 昨年度の試験の結果、学生の理解度が低かった項目、ミラー指数、再結晶、状態図、核形成、高分子材料について演習時間を増やして理解度があがるようにする 2. 確率統計 : 昨年度の試験の結果、学生の理解度が低かったポアソン分布、正規分布、中心極限定理について演習時間に増やして理解度があがるようにする 3. 本年度の卒論生4名が就職・進学できるように実験日時を工夫すること及び面接や試験問題についてのサポートする。			0.30	1. 理解度が低かった項目について演習問題と解説時間を増やした結果、平均点が昨年より高くなった。2. 理解度が低かった項目について演習問題を通して理解が深まるようにし、平均点が上がった。3. 4名の卒論生について進路指導を積極的に行い、4名就職が出来、2名は一部上場の会社に就職した。		
研究	0.30	1. 共鳴電析に関する論文を高インパクトファクターの欧文誌に投稿し、掲載されるようにする。 2. 金電析に関する表面相転移に関する2年間の研究成果を欧文誌に掲載されるようにまとめる。 3. 銅電析に関する研究を論文にまとめる。			0.30	1. 共鳴電析関係の研究がInt. J. Electrochem. Sci.(impact factor1.7)に2報掲載された。2. 金電析の研究が2報欧文誌に掲載された。3. 銅電析の研究が2報欧文誌に掲載された。		
社会 貢献	0.10	1. Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry、corrosion、ISRN materials scienceをサポートする活動、査読、出版物の提言、助言等の仕事を行い3誌の国際的評価向上及び学問の発展に寄与する。 2. 欧文誌の査読依頼を積極的に引き受ける。			0.10	1. Editorial Boardメンバーとして論文査読を2件行った。2. 欧文誌からの査読依頼を1件引き受けた。		
管理 運営	0.30	1. 学科長として機械システム工学科の運営を以下のように行う。(1)、職員間の情報の共有を速やかに行う。(2)学科会議の進行をスムーズに行い、職員の時間的負担を軽減する。(3)人事案件を速やかに行い、教育研究の充実を図る			0.30	1. 情報伝達を速やかに行い、早期に回答を導き、学科審議というサイクルを回した。2. 学科審議では話が横道にそれないように注意し、論点が明確になるように資料の用意を行なった。3. 戦略的再配分の学科審議を速やかに行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石川 正明	所 属	工学部 機械システム工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生実験のレポートの提出状況をよくするために、メール等活用する。</li> <li>講義の欠席数を減らすために、欠席する学生へメールなどでコミュニケーションを取り、指導する。</li> <li>研究室学生に対し、メールまたはゼミ等で、就職情報を提供するとともに、就職状況を把握する。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート提出の遅延者に対し、担当教員に連絡先を聞き、提出を促した。</li> <li>学科の欠席管理システムの情報を基に、メールにて状況の確認および指導を行った。</li> <li>ゼミにおいて、学生の就職状況等の確認を行った。</li> </ul>	
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内会議へ積極的に参加し、研究成果を発表する。</li> </ul>		0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>可視化情報シンポ(工学院大学)で、オーガナイザーを務めるとともに、座長および発表を行った。</li> <li>混相流シンポ(京都)で、オーガナイザーを務めるとともに、座長および発表を行った。</li> </ul>	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本混相流学会における委員会で活動する。</li> <li>2017年沖縄開催の2つの国際会議(TFEC9, ISAIF13)で、現地委員として活動する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>混相流学会では、講演数の増加・維持のために、メールで周知を行った。</li> <li>ISAIF13では、HPの編集、現地視察など、行った。</li> <li>TFEC9では、現地視察を行い、会場設営に関して話し合った。</li> <li>九州卒研講演発表の準備・実行委員で、プログラム編成を行った。</li> <li>小学生に工学への興味を持ってもらうため、「ちびっ子エンジニアリング体験教室」に参加した。</li> </ul>	
管理運営	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		倉田 耕治		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.40	機械力学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行う。授業の最後の二, 三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図る。				0.40	目標に挙げた授業を担当し, それぞれ最後の三回で集中的に演習を行った。問題と模範解答を書いたプリントを配付し, 演習を欠席した学生が取って行けるように, 教員室前にも置いた。大学院生2名を指導して, それぞれに研究会発表を行わせた。				
研究	0.30	大学院生, 他大学(岡山理科大学, 宮崎大学等)との共同研究をおこなう。学会, 研究会発表または論文発表2~3件程度。				0.30	宮崎大学情報工学科の伊達章博士, 岡山理科大学知能機械工学科の綴木馴博士との共同研究をそれぞれ継続中。大学院生2名を指導して, 共著で研究会発表を2件行った。				
社会貢献	0.10	電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める。依頼があれば一般向けの講演会, 学会, 研究会の座長, 顕彰評価委員などをおこなう。				0.10	電子情報通信学会ニューロコンピューティング・非線形問題研究会(併催)の座長と IEEE Young Researcher Award の評価委員を務めた。人工知能学会出版「人工知能学辞典」の「ホップフィールドネットワーク」の項を執筆。				
管理運営	0.20	JABEEシステム委員会の委員長を務める。パワーハラスメント事件の調査委員会の委員長を前年度から継続中。				0.20	前年度から引き続いていたパワーハラスメント事件の調査委員会の委員長としてハラスメント防止対策委員会に報告書を提出した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤川 正毅	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.40	授業と実験の目的やその工業的な役割を明確にして、学生が興味をもてる様に努力する。また学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける。 進路相談に関して、日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける。また、履歴書の書き方や面接など助言をする。大学院進学を考えている学生には、そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えられるように資料作成・面談を行う。		0.40	授業アンケートより学生の理解と評価が好評だった。授業や実験内容が社会でどのように役に立つのかをできるだけ含めるようにスライドや資料を工夫している。また研究の意義や目的なども講義の中に入れて、学生の興味を引き付けるように工夫している。 また、積極的に学生の就職活動状況について話しかけ、就職活動の状況を確認するとともに、履歴書乃作成の助言、面接の練習などをおこなった。			
研究	0.40	学会誌への論文投稿・学会発表を目標に研究を進める。また、外部資金や共同研究の獲得を目指す。		0.40	投稿論文4編が採択された。また2件の共同研究を行った。以上より、目標を達成したと言える。(その他、国内5件、国際学会3件の発表を行った。)			
社会 貢献	0.10	研究に関する学科活動や勉強会に参加する。		0.10	ゴム協会主催のゴムの力学研究分科会にて、講師をおこなった。また機械の日のイベントに参加して、子どもたちと物づくり体験を行った(速く走るミニ四駆づくり)。			
管理 運営	0.10	教授会、学科会議に積極的に参加する。また、学科内および学部内等の各種委員会に参加し協力する。		0.10	改組関係の委員、および学科内での委員活動を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				